

常葉だより

学校法人常葉大学
創立80周年記念号

NO.2

学 校 法 人 常 葉 大 学
常 葉 大 学 ・ 大 学 院
常 葉 大 学 短 期 大 学 部
常 葉 大 学 附 属 常 葉 中 学 校 ・ 高 等 学 校
常 葉 大 学 附 属 橘 中 学 校 ・ 高 等 学 校
常 葉 大 学 附 属 菊 川 中 学 校 ・ 高 等 学 校
常 葉 大 学 教 育 学 部 附 属 橘 小 学 校
幼 保 連 携 型 認 定 こ ど も 園 常 葉 大 学 附 属 と こ は 幼 稚 園
幼 保 連 携 型 認 定 こ ど も 園 常 葉 大 学 附 属 た ち ば な 幼 稚 園
常 葉 大 学 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 病 院

学校法人常葉大学 創立80周年を迎えて — 継承と挑戦、その先へ



学校法人常葉大学 理事長 木宮 健二

学校法人常葉大学は、皆様のおかげをもちまして、令和8年6月8日に創立80周年という歴史的な節目を迎えました。この記念すべき年を迎えることができましたのも、ひとえに長年にわたり本法人の教育研究活動を温かくお支えくださった地域の皆様並びに関係者の皆様のご理解とご支援の賜物であり、心より厚く御礼申し上げます。

本法人の歩みは、戦後の荒廃期である昭和21年、創立者木宮泰彦が「教育こそが日本の未来を切り拓く礎である」との強い信念のもと、学びの場として本法人の原点である「静岡女子高等学院」を静岡浅間神社北回廊に設立したことに始まります。以来、建学の精神に基づく特色ある教育を実践し、時代や地域の要請に応える人材の育成に努めてまいりました。本法人の建学の精神である「より高きを目指して～ Learning for Life～」は、知識の獲得にとどまらず、生涯にわたる学びの持続性を重視する本法人の教育理念の根幹をなすものです。この建学の精神のもと、本法人は「地域と連携し、教育を通して地域創生に貢献する」ことを使命とし、幼保連携型認定こども園から大学・大学院まで一貫して地域と連携した探究活動や実践的な学びを提供し、若者の成長を育む教育を推進しています。創立者の志は今日まで脈々と受け継がれ、現在では園児から大学生・大学院生まで約11,700人を擁する静岡県内最大規模の私立学校法人へと発展しました。

この80年の歩みは、地域社会の皆様からのご支援を得ながら、知の創造と人材育成に邁進してきた本法人の歴史

そのものです。

さて、本法人は教育研究活動の充実と高度化を図るため、平成25年には、法人内にあった3つの大学を統合し、総合大学「常葉大学」を開学しました。この大学統合は、少子化時代における大学の新たな在り方を示す先進的な取り組みとして全国的な注目を集め、本法人の発展における大きな転機となりました。さらに平成30年には、JR草薙駅北口から徒歩4分という利便性の高い立地に静岡草薙キャンパスを開設し、教育研究環境の一層の充実を図りました。

また、少子高齢化が進行する社会環境を見据えた将来構想として、令和10年4月の開設を目指し、常葉大学浜松キャンパスをJR浜松駅南口徒歩7分の地への移転事業を進めています。交通利便性に優れ、最新の設備を備えた新キャンパスの誕生は、学生にとって快適で充実した学びの場となるとともに、近隣大学や地元企業等との連携を通して教育研究力の向上や地域経済の活性化にも寄与するものと確信しています。

本法人は、今後も建学の精神を礎に、先人が築き上げた歩みを継承しながら、地域及び時代のニーズに応える教育研究活動を行い、未来を担う人材の育成を通して地域社会に貢献してまいります。改めまして、これまでのご支援並びにご助力に深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご理解並びにお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

在籍者数(学生・生徒・児童・園児数)

(令和8年5月1日現在)

在籍者数
総数

11,673 人

男女比

47:53

常葉大学 (大学院含む)

在籍者数 7,909 人

常葉大学短期大学部

在籍者数 260 人

常葉大学附属常葉中学・高校

在籍者数 337 人

常葉大学附属橘中学・高校

在籍者数 1,285 人

常葉大学附属菊川中学・高校

在籍者数 1,276 人

常葉大学教育学部附属橘小学校

在籍者数 239 人

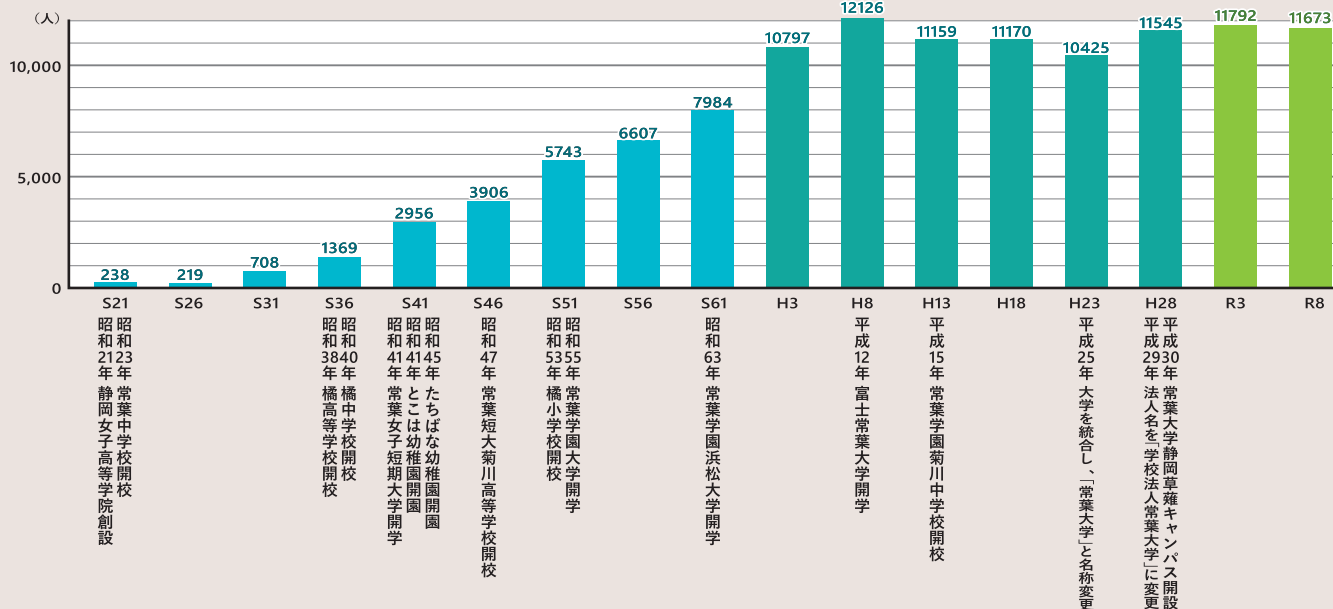
幼保連携型認定こども園常葉大学附属とこは幼稚園

在籍者数 181 人

幼保連携型認定こども園常葉大学附属たちばな幼稚園

在籍者数 186 人

学生・生徒・児童・園児数の推移



教職員数

(令和8年5月1日現在)

教員数

553 人

職員数

323 人



教員一人当たりの学生・生徒・児童・園児数

常葉大学

約 24.4 人

常葉大学短期大学部

約 11.8 人

常葉大学附属常葉中学・高校

約 12.4 人

常葉大学附属橘中学・高校

約 18.6 人

常葉大学附属菊川中学・高校

約 19 人

常葉大学教育学部附属橘小学校

約 14 人

幼保連携型認定こども園常葉大学附属とこは幼稚園

約 12 人

幼保連携型認定こども園常葉大学附属たちばな幼稚園

約 15.5 人

創立80周年を迎えた学校法人常葉大学の歩みを、「数字」という視点からご紹介します。
在籍者数や卒業生数、歴史の積み重ねなど、さまざまなデータを通して、
本法人のこれまでと未来への広がりをご覧ください。

創立 80 周年記念
特設ホームページ

▶▶▶

卒業生数

(令和8年5月1日現在)

総数

171,150 人

常葉大学



昭和59年3月 常葉学園大学第1回卒業式

大学総数

47,817 人

常葉学園大学(昭和59年3月～平成25年3月) 10,610人
浜松大学(平成4年3月～平成28年3月) 11,242人
富士常葉大学(平成4年3月～平成28年3月) 6,995人
※常葉学園富士短期大学含む
常葉大学(平成25年9月～) 18,970人

常葉大学短期大学部

常葉大学附属常葉中学・高校

常葉大学附属橘中学・高校

常葉大学附属菊川中学・高校

30,026 人

29,914 人

28,606 人

20,035 人

常葉大学教育学部附属橘小学校

常葉大学附属とこは幼稚園

常葉大学附属たちばな幼稚園

2,314 人

5,392 人

4,859 人

常葉学園医療専門学校

常葉学園静岡リハビリテーション専門学校

常葉環境情報専門学校

1,172 人

400 人

615 人



昭和59年3月 卒業を祝って

学校(園)・病院数 (令和8年5月1日現在)

大学院	1
大学	1
短期大学部	1
中学校	3
高等学校	3
小学校	1
こども園	2
病院	1



総面積

(令和8年3月31日現在)

621,380m²

東京ドーム約 13 個分



図書館蔵書数 (令和8年3月31日現在)

776,483 冊

80年で積み重ねた知の蓄積



【大学】昭和55年4月1日開学(学生数139人) ⇒ 令和8年5月現在(学生数7,909人)
 【短大】昭和41年4月1日開学(学生数104人) ⇒ 令和8年5月現在(学生数260人)



常葉大学 46年・常葉大学短期大学部 60年の歩み

▶ 地域とともに歩む常葉大学 学長 安武 伸朗

常葉大学は、平成25年4月、法人傘下にあった常葉学園大学、浜松大学及び富士常葉大学を統合して開学しました。本法人の建学の精神である「より高きを目指して～ Learning for Life～」を踏まえ、「知徳兼備」「未来志向」「地域貢献」を教育理念に掲げ、教育研究活動を展開しています。

本学は開学にあたり、本法人発祥の地である静岡市葵区水落に静岡水落キャンパスを開設し、静岡瀬名、浜松及び富士の各キャンパスと併せた4キャンパス体制で教育研究活動を開始しました。平成30年4月に静岡草薙キャンパスを新設し、静岡瀬名キャンパスに所在していた教育学部、外国語学部、国際言語文化研究科及び初等教育高度実践研究科(現：学校教育研究科)を同キャンパスへ移転しました。また、富士キャンパスに所在していた経営学部、社会環境学部、保育学部及び環境防災研究科についても同キャンパスへ移転し、これに伴い富士キャンパスは閉鎖しました。現在は、静岡草薙、静岡瀬名、静岡水落及び浜松の4キャンパス体制で運営しています。

一方、本学短期大学部の前身である常葉女子短期大学は、昭和41年に国文科及び保育科を設置して開学し、以降、学科・専攻科の整備や各種資格・免許課程の充実を図ってきました。平成25年4月には常葉大学短期大学部として再編され、本年度で創立60周年を迎え、これまでに多くの卒業生に社会に送り出しています。

現在、本学の学生数は約8,000人で、その9割以上が静岡県内の高校出身者です。また卒業生の8割強が県内に就職しており、大学・短大合わせて約78,000人の卒業生が各学部・学科の専門性を生かして県内の教育や保育、医療をはじめ、さまざまな産業の第一線で活躍しています。まさに本学が人材の育成と輩出を通して静岡の社会の持続性を支える役割を果たしています。

また、令和10年4月、常葉大学浜松キャンパスは浜松市浜名区都田から浜松駅南口徒歩7分の中央区寺島町へ全面移転します。交通の利便性抜群の浜松駅前キャンパスは、「地域に根差し、次世代の若者の夢をかなえ、地域とともに新しい街を創造する」を基本コンセプトとし、県西部の企業や自治体による産学官連携の教育・研究をなおいっそう推進するとともに、学生が市街地の賑わいを生み出す基盤となる計画です。これからも地域とともに歩む大学として、新たな価値の創造に挑戦し続けていきます。



昭和47年 常葉女子短期大学(菊川校舎)・菊川高校合同の開学・開校式典



昭和55年 常葉学園大学(教育学部)開学 入学式



昭和55年 常葉学園大学開学



昭和63年 常葉学園浜松大学開学



平成30年 静岡草薙キャンパス開設



令和10年 新・浜松駅前キャンパス開設予定

※パースは変更になる場合があります。

▶ とこは未来6プロジェクト実施中

「主役は学生」をモットーに社会人基礎力養成、課題解決型事業などさまざまなプログラムを実施しています。
この「とこは未来6プロジェクト」を通し、教職学（教員・職員・学生）が一体となって常に新しい学びを創造していきます。

I

とこは未来教育 教職学協働事業

学生と教職員が意見交換を重ねながら、共に魅力ある大学づくりに取り組んでいます。学生及び教職員が協働し、さらなる大学の魅力向上を目指しています。

II

とこは未来教育 推進助成事業

特色ある教育を強化・推進するための事業です。各学部・学科等の独自性を生かした取り組みや、学部横断型の事業を通して、学生一人ひとりの成長と満足度の向上を目指しています。

III

MIRAI アクションプラン - 未来を担う社会人基礎力養成プログラム -

学生の地域・社会貢献活動を体系化し、「考え抜く力」「チームで働く力」「前に踏み出す力」といった社会人基礎力を育成しています。所定の活動を修了した学生には、「MIRAI アクションプラン認定証（とこは MIRAI フェロー）」を授与します。

IV

とこは未来 研究推進事業

若手研究者育成支援制度では、共同研究・科研費申請・研究費支援を通して研究力の向上を図り、外部の専門支援サービスを導入して科研費申請を支援しています。

V

とこは未来教養講座

学部・学科や大学・短大の枠を越えて学べるオンデマンド型の共通講座を実施しています。

単位取得を目的とせず、学生の興味や関心に応じて自由に学べる場を提供し、本学の多様性を生かした新しい学びを創出しています。

VI

とこは未来塾 -TU can Project-

学生の発想や熱意ある活動に対し、教員の助言や活動資金を支援し、地域の活性化につなげています。

夢に直結する4年間で、ここで。

Beyond the Limits

【中学】昭和23年4月1日開校(学生数50人) ⇒ 令和8年5月現在(学生数75人)
 【高校】昭和21年6月8日開校(学生数238人) ⇒ 令和8年5月現在(学生数262人)



常葉大学附属 常葉中学校78年・高等学校80年の歩み

▶ 建学の精神を未来へ

校長 木宮 暁子

自宅の片付けをしていると、創立10年の頃に建てられた校舎の設計図や、色褪せた大量の借用書、丁寧な字で記された学校運営資料などが見つかりました。それらから、創立当初、資金も十分ではない中で懸命に学校づくりに取り組んでいた様子が伝わってきます。創立者は私の祖父ですが、幼い頃に亡くなったため、「優しいおじいちゃん」という思い出しかありません。しかし、祖父が書き残した『創立十年史』には、敗戦後、還暦を過ぎてから学校を創ろうと決意した熱い思いや、多くの人との縁を大切にしながら学校を育ててきた歩みが記されています。

創立80周年を迎えた今、原点に立ち返ることは、変化の激しい時代の中で、「建学の精神」という揺るぎない軸を再確認することだと感じています。本校が目指す生徒像は、「Agency を意識した、自律した生徒の育成」です。「Agency」とは、「変化を起こすために、自ら目標を定め、振り返り、責任をもって行動する姿勢」を意味します。80年という伝統に誇りと責任をもち、生徒一人ひとりの可能性を温かく力強く支えていきます。これからも、本校は建学の精神に基づきながら、新しい時代に挑戦し続けてまいります。



昭和21年 静岡女子高等学院を静岡浅間神社北回廊で開校



昭和23年 常葉中学校開校



現在の校舎

▶ 未来をひらくキャリア教育

中学 探究学習「Tokoha の学びプロジェクト」

令和7年度、トヨタユニテッド静岡株式会社と静岡市消防局との連携で実現したのは、既存の知識をなぞるのではない創発的な学びの実践です。現場の生きた声に触れ、何度も企画を練り直す「答えのない試行錯誤」の中で、生徒たちは不確実な状況を楽しむしなやかさを身に付けました。地域社会のプロとの真剣な対話は、生徒一人ひとりの内にある探究心に火を灯し、次なる創造への確かな一歩となりました。



高校 連携講座&探究学習

幼稚園、保育園、専門学校、病院などと連携し、1年次から、系列ごとの連携講座で進路について深く学んでいます。2、3年次の連携講座では「大学での学び」の講座を受講することができます。常葉大学の各学部の先生方の講義を受けることによって、大学の学びについて知見を広め、学部選びのミスマッチを防ぐことに役立てることができています。令和7年度から、年間を通してのテーマを設定し、さまざまな領域から探究的な学びも実施しています。

【中学】昭和40年4月1日開校(学生数27人) ⇒ 令和8年5月現在(学生数229人)
 【高校】昭和38年4月1日開校(学生数300人) ⇒ 令和8年5月現在(学生数1,056人)



常葉大学附属 橘中学校61年・高等学校63年の歩み

橘の沿革と教育の礎

校長 関本 和彦

本校は昭和38年、常葉学園橘高等学校として300人の新入生を迎え、男子校として開校いたしました。また、橘中学校は昭和40年に第1期生27人をもって開校しております。「橘」の名は、建学の精神を拠り所とした聖武天皇の御製「橘は実さへ 花さへ その葉さへ 枝に霜降れど いや常葉の樹」にちなみ、校名として定められました。その教育精神の根底にあるのは、創立者木宮泰彦の「教育は人をつくり、社会をつくる」という確固たる信念です。この理念は、単なる知識の習得にとどまることなく、人としての在り方を育むことに重きを置くものであり、本校の教育活動の原点として、今なお脈々と受け継がれています。開校当初は、設備・体制の両面において決して十分とは言えず、まさに手探りの歩みであったようです。しかしながら、教職員が一丸となり、生徒一人ひとりと真摯に向き合い続けてきた日々の積み重ねが、本校独自の教育文化を築き上げてまいりました。生徒の挑戦を支え、ともに悩み、ともに成長するという姿勢は、今日に至るまで変わることのない本校の礎であります。

現在においては、探究的な学びや地域貢献活動、さらにはICTを積極的に活用した教育など、多様な学習機会が広がっております。生徒は自ら課題を見だし、未来を切り拓く力を着実に身に付けており、その姿に触れるたび、初代校長の木宮泰彦の志が確かに息づいていることを実感いたします。

今後におきましても、本校は開校以来の精神を大切に守り続けるとともに、生徒一人ひとりの可能性を信じ、その力を最大限に伸ばしながら、社会に貢献し得る人材の育成に邁進してまいります。



開校当初の様子



昭和38年 校舎全景



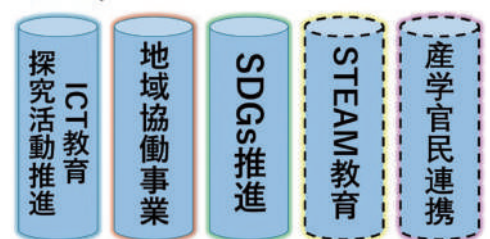
現在の校舎

「答えのない問い」「校内だけでは終わらない活動」

本校の教育活動を通して育まれるのは、課題を自ら見だし、他者と協働しながら解決策を構想・実践していく「創造的な探究力」です。本校独自のTPRプロジェクト(Tachibana Pioneers for the Region Project)を核に、生徒一人ひとりが社会に主体的に向き合う意識を醸成しています。「自分には何ができるのか」を問い続け、地域課題の解決に挑む経験は、進学や就職といった短期的な目標を超え、生涯にわたり社会に貢献し続ける確かな基盤となります。また、企業や地域社会との実践的な連携は、知識や技能の深化にとどまらず、大学入試における自己表現力の向上や将来のキャリア形成、さらには「より良い社会の実現に寄与したい」という高い志の涵養へと結実しています。さらに、本校では1年間の探究活動の成果として、自身の成長過程を「Inspire High」というツールを用いて数値化し、可視化する取り組みも行っています。こうした振り返りを通して、生徒は自らの歩みを客観的に捉え、次なる挑戦へとつなげています。

本校はこれからも、「答えのない問い」に向き合い続ける姿勢を大切にしながら、社会と深く関わる学びを通して、未来を切り拓く人材の育成に努めてまいります。

5つの柱 未来へ



静岡銀行

金融関係について探究



FDA 航空会社

会社の課題について探究



グラデュエーションポリシー： 橘が目指す生徒の姿

自ら学び続け、
自らの幸せを感じる生徒
時代の変化に挑戦し続け
地域、社会に貢献できる生徒

これら2つのポリシーを実現するため、本校のすべてのカリキュラムは「実社会での実践」へと接続されています。

【中学】平成15年4月1日開校(学生数46人) ⇒ 令和8年5月現在(学生数148人)
 【高校】昭和47年4月1日開校(学生数238人) ⇒ 令和8年5月現在(学生数1,128人)



常葉大学附属 菊川中学校23年・高等学校54年の歩み

▶「夢叶う学校」を目指して

校長 加藤 伸司

本高等学校は昭和47年、県立小笠農業高等学校跡地に開校いたしました。創立当初は女子校としてスタートいたしましたが、昭和51年には美術・デザイン科を、昭和58年には普通科をそれぞれ共学化し、県中西部地区を代表する大規模校へと発展してまいりました。さらに平成15年には併設中学校を開校し、今日に至っております。

これまでに輩出した約20,000人の卒業生は、「自立・創造・礼節・共生」の校訓のもと、小笠・掛川地域をはじめ静岡県の実業・経済の発展に寄与し、各分野において活躍しております。中には、スポーツや美術デザインの分野において全国、さらには世界へと活躍の舞台を広げている卒業生もおります。

本校の歴史を振り返るうえで特筆すべき出来事の一つに、平成19年の第79回選抜高等学校野球大会における優勝が挙げられます。この快挙は、「常葉」の名を全国に広く知らしめるとともに、「菊川」の名もまた多くの方々々に印象づけ、地域の皆様に大きな感動と誇りをもたらしました。

さて、令和8年度、本校では学校運営の共通言語として「夢叶う学校」を掲げ、教職員はもとより、生徒・保護者の皆様にも広く発信しております。

生徒一人ひとりが抱く夢は実に多様であり、将来を見据えた長期的な目標もあれば、高校生活の中で実現したい身近な目標もあることでしょう。本校の歴史を築いてこられた教職員、卒業生、そして地域の皆様の思いを礎に、生徒が安心して挑戦できる環境を整え、その一步を力強く後押しできる——そのような学校づくりを、これからも推進してまいります。



昭和47年 菊川高校入学式



昭和47年 菊川校舎全景



現在の校舎

中学 防災で深まる絆、笑顔あふれる「HR(ホームルーム) Day」開催！

令和8年4月23日、本校にて全学年合同の「HR Day」が行われました。令和8年度は中1から中3までの「たてわり班」を結成し、学年の垣根を越え、防災講座と交流会を通じて親睦を深めました。

防災講座では日本赤十字社静岡県支部から講師を招き、救命法や避難生活の知識を学びました。胸骨圧迫や AED の講習では、命を救うための力加減や声掛けの重要性を実感しました。「いざという時に妥協せず行動したい」と頼もしい感想が聞かれました。また、新聞紙でのスリッパ作りなどの演習を通じ、自助・共助の精神を養う貴重な時間となりました。

続く交流会では、生徒会企画のレクリエーションや学食でのカレーランチを共にしました。最初は緊張していた1年生も、優しくリードする先輩の姿に次第に笑顔になりました。先輩からは「後輩と話せて学校全体がまとまった」、後輩からは「勇気を出して話しかけ、素敵な思い出になった」との声が寄せられました。

災害時に支え合える絆を育み、顔と名前が一致する仲間が増えた今回の HR Day。この日深めたチームワークを、今後の学校生活や地域での助け合いにつなげていきたいと感じる一日となりました。



高校 探究学習～ TKC プロジェクト～

本校では、菊川市と連携した独自の探究学習「TKC (Tokoha Kikugawa Creative) プロジェクト」を教育活動の柱とし、地域社会への深い理解と職業観の育成を図っています。具体的な活動として、5月には市の現状や課題を学ぶ「菊川市と菊川高校のつながりを学ぼう」を、6月には医療、防災、観光、農業など15の多様な分野の専門家から、社会貢献や仕事のやりがいを直接聴く「探究分科会」を実施しています。2学期以降、生徒は自ら地域課題を設定して情報の収集・分析を進め、3月には集大成となる「探究発表会」で学びを共有します。さらに、優れた発表をした生徒は市主催の「菊川市高校生まちづくりプレゼンテーション大会」に参加し、菊川市長や市議会議員の前で自らの提言を発表する機会を得ています。これらの活動を通じ、生徒は地域の課題を自分事として捉え、多角的な視点で解決策を模索する力を身に付けます。今後も社会貢献への意識を高く持ち、地域社会の未来に向けて主体的に行動できる生徒の育成に努めていきます。



昭和53年4月1日開校児童数13人 ⇒ 令和8年5月現在(児童数239人)



常葉大学教育学部附属 橘小学校の48年の歩み

▶ 受け継ぐ志、拓く未来。

校長 小田切 真

本校は、開校以来、常葉大学教育学部の附属小学校として、子どもたち一人ひとりの可能性を信じ、その芽を大切に育てる教育を積み重ねてまいりました。開校当初、私たちが何より大切にしたのは、子どもたちが安心して学び、友達や先生とのかかわりの中で、自分らしく成長できる学校をつくることでした。その思いは、時代が変わった今も、本校教育の根幹として受け継がれています。

現在本校では、日々の授業を中心に、探究的な学び、英語教育、ICTの活用、体験活動などを通して、子どもたちが自ら考え、表現し、仲間と協働する力を育んでいます。また、附属校としての特色を生かし、専門的な知見や豊かな教育環境を取り入れながら、学びの楽しさや挑戦する喜びを実感できる教育活動を進めています。

子どもたちの未来は、予測が難しい社会へと広がっています。だからこそ、知識を身に付けるだけでなく、人を思いやる心、粘り強く取り組む姿勢、自分のよさを信じて歩む力を育てることが大切だと考えています。これからも、開校時からの志である「三方よし」を胸に、保護者の皆様、地域の皆様と手を携えながら、子どもたちの健やかな成長を支える学校であり続けたいと思います。



開校当初の様子



昭和53年 校舎全景



現在の校舎

▶ 「三方よし」の心は一生の宝物



そのため、子どもたちは自分で考え、判断し行動する力が自然についていきます。高学年生が低学年生に寄り添い、お世話する姿もその一つです。相手にとって何が必要かを考え、自分が何ができるかを考えて動いています。

予測困難な未来を生きる子どもたちにとって、周囲と調和しながら納得解を見出す「三方よし」の視点は一生の宝物となります。

「いつでも どこでも 三方よし」は、たちばなっ子の生活目標です。

自分の個性を大切に（自分よし）、友だちの心と体を思いやり（相手よし）、よりよいクラスや社会を築く（みんなよし）ことを目指します。

この精神が浸透することによって、他者を傷つけない優しさと自己肯定感が共存する温かい居場所が生まれます。人の心や体を傷つけることのない、みんなが安心できる小学校を児童と教職員全員でつくっています。橘小学校には「人・もの・こと」がそろっています。



昭和41年4月1日開園(園児数31人) ⇒ 令和8年5月現在(園児数181人)

幼保連携型認定こども園
常葉大学附属

とこは幼稚園60年の歩み



▶ あの日の願いは、今もここに

園長 池田 美穂

昭和41年4月、常葉女子短期大学（現・常葉大学短期大学部）の附属幼稚園として、北安東の地にとこは幼稚園が産声を上げました。（平成20年に城北に新築移転しています。）

開園当初の記録には、保護者と一緒に園庭の石拾いを行ったことが残されており、多くの人の力と願いによって幼稚園が形づくられていったことが伝わってきます。

創立者である木宮泰彦の「精神的にも身体的にも、さらに社会的、情緒的にも十分な発達をさせたい」という強い思いの中に、よりよい幼児教育を目指そうとする熱意と信念がうかがえます。



昭和43年 第1回卒園式

園舎や園児数、保護者のニーズ、保育時間など、社会の変化とともに幼稚園を取り巻く環境は大きく変わりましたが、創立者の思いを大切に受け継ぎながら、園児たちが遊びを通して考えたり発見したり、挑戦したりする体験を重ね、達成感や自己充実感、自己肯定感など「生きる力」のもとを十分培うことができるよう、質の高い保育を目指すとともに、地域とともに歩み、園児たちや保護者、職員の笑顔あふれる園であり続けたいと思います。



昭和41年 園舎全景



現在の園舎

▶ 直接体験を通じた遊び(学び)

とこは幼稚園では、「直接体験を通じた遊び(学び)」を大切に、子どもたちの主体性や豊かな感性を育む教育活動を行っています。園庭では、泥んこ遊びや砂場遊び、水遊びなど、季節や自然に触れながら思いきり遊んで楽しんでいる姿がよくみられます。子どもたちは、友達とともに川や山を作ったり、水の流れを工夫したりする中で、発見する楽しさや考える力を深めています。また、遊びを通して自分の思いや考えの違いに気づいたり、自分の思いを伝えつつも相手に寄り添う気持ちを持ったりして相手を思いやる気持ちや協力する姿も育まれています。これからも、一人ひとりの「やってみたい」という気持ちを大切にしながら、心と体の成長につながる教育活動を大切にたくさんの実体験を取り入れていきたいと思っています。



昭和45年4月1日開園(園児数100人) ⇒ 令和8年5月現在(園児数186人)

幼保連携型認定こども園
常葉大学附属

たちばな幼稚園56年の歩み



▶ 開園時から受け継がれる教育の歩み

園長 松浦 秩保子

昭和45年、当時は希少な制服のない幼稚園として開園しました。制服で統一して個性を埋没せず個性を尊重する教育を貫くことが理由の一つです。また、園児の興味・関心や意欲を踏まえ、自らが選び発展させる遊びから自発性・主体性を養い、運動やリズム遊びなど友達と取り組む集団遊びを通し、社会性・協調性等を養う自由と集団のバランスのとれた保育を計画的に実施していました。平成30年に幼保連携型認定こども園に移行し、生後8カ月から就学前の園児までが通う園となり形式は変わりましたが、開園当初より継承している「個性尊重」「自由と集団のバランス」を重点におき、未来に向かう子どもたちの生きる力の土台を大切に育んでいきます。



開園当初 園児に話しかける園長



昭和45年 園舎全景



現在の園舎

▶ 人とつながり とともに育ちあう

少子化が進む中、認定こども園としての教育方針を基盤としつつ保護者の就労状況やニーズに合わせた保育が求められています。本園ではこの時代だからこそ、特に「人とのつながり」を軸とした教育・保育を行っています。さまざまな年齢の子どもたちが混ざり合い過ごす中で、年上の子どもたちへは憧れを、また年下の子どもたちへは思いやりを自然に育んでいます。社会性やコミュニケーション能力の基礎を築く大切な時期に、温かな環境の中で子ども同士がかかわり合い、ともに育ちあえる教育・保育活動を推進しています。



平成14年4月1日開院(病床数36床) ⇒ 令和8年5月現在(病床数80床)



常葉大学リハビリテーション病院24年の歩み

▶ 地域の暮らしを支え、次代を育む回復期リハビリテーションの拠点として 院長 名倉 博史

当院は平成14年4月、浜松市北区根洗町(現・中央区)にて浜松リハビリテーションセンターの施設を譲り受け、療養病床36床にて開院いたしました。平成25年11月には浜松市西区大山町(現・中央区)へと移転し、現在は回復期リハビリテーション病床80床を備える専門医療機関として、今日に至ります。

当院は回復期リハビリテーションを専門としており、急性期疾患の治療は終了し、全身状態は安定したものの、安静や鎮静によって身体機能が低下し、歩行や更衣、排泄、入浴などに支障が生じた患者さんを対象としています。こうした方々の在宅復帰や職場復帰を目指し、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、社会福祉士、介護福祉士など、多種多様な専門職が緊密に連携をとりながら、安全で質の高いリハビリテーションを提供しています。

また、大学に付随する施設として、関連学部学生にとって実践的な臨床教育の場となっていることも当院の大きな特徴です。専門職に必要な知識・技術を修得し、チーム医療を深く学ぶ環境を提供することによって、未来の医療現場を支える人材を育成しています。

これまでの皆様の温かいご支援に深く感謝申し上げますとともに、今後も建学の精神「より高さを目指して～Learning for Life～」のもと、地域に信頼される病院として、教育・医療・地域貢献を一体的に推進し、さらなる発展を目指してまいります。



開院当時の活動



旧病院(根洗町)

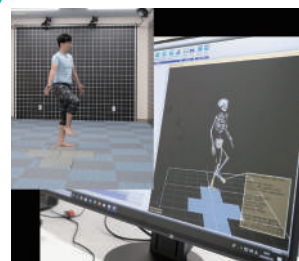


現在の常葉大学リハビリテーション病院

▶ 患者支援と人材育成を両立するリハビリテーション体制

当院では、最新リハビリテーション機器を積極的に導入し、科学的根拠に基づいた支援を行っています。さらに、療法士が患者様のご自宅へ伺う「家屋訪問」を実施し、生活の場に即した動作練習を重ねることを通して、安全で円滑な在宅復帰を支援しています。

また、教育機関を母体とする病院として、人材育成にも注力しています。現在は近隣の養成校からの実習生も積極的に受け入れており、理学療法士・作業療法士のみならず多職種(コメディカル)へも幅広く展開。現場でチーム医療を学ぶ質の高い環境を提供し、人材教育に貢献しています。



常葉大学静岡草薙キャンパスには、学生や教職員の毎日を食で支える2つの学食があります。広々とした**グラン・テーブル**は約1,000席、**トコ・カフェ**は約500席を備え、昼休みにはほぼ満席になるほど多くの利用者が賑わいます。両学食では、栄養バランスに配慮した食事を提供しており、学内の大切な交流の場として親しまれています。学外の方もご利用いただけるのも魅力の一つです。

それぞれの食堂が個性豊かなメニューを展開し、利用者の多様なニーズにえています。本学にお越しの際は、ぜひ学食にもお立ち寄りいただき、こだわりの味をご堪能ください。

グラン・テーブル

しっかり食べたい方に
ぴったりのラインナップ！

カツカレー

チキン南蛮定食

焼き豚つけ麺
～濃厚とんこつ醤油

濃厚なスープが
特徴のつけ麺

コク深い
味わい

ボリューム満点で
満足感が高い！
ごはん・スープ付き！

トコ・カフェ

トコ・カフェ

訪れるたびに
新たな味わいに出会える！

トコプレート

香ばしく焼き上げた
ヘルシーな
定番メニュー！

南蛮
タルタル
ソース

内容が変わる楽しさが魅力！
オムライスのような
人気メニューも登場！

どれも
スープ、惣菜、
デザート付き！

週ごとに異なる
メニューを提供！
炭火焼きハラミ料理を
はじめとした
食へのこだわりが
魅力！

週替わり丼

令和10年4月

新・浜松駅前キャンパス誕生

MIRAI TOKOHA

Beyond the Limits

JR「浜松」駅
南口

徒歩
約 **7分**

※完成予想 CG
変更になる場合があります。

令和10年 保育学部 2キャンパス制開始!



静岡草薙
キャンパス



浜松駅前
キャンパス

※健康プロデュース学部 保育健康学科は令和10年度入試から募集停止します。 ※設置構想中(設置構想は予定であり、内容に変更があり得ます。)

令和9年度入学生から 入学定員が変わります

本学では、令和8年4月に文部科学省へ収容定員に係る学則変更届出を行いました。
このことによって、令和9年度入学者から入学定員を次のとおりに変更いたします。

学部	学科	令和8年度 入学定員	令和9年度 入学定員	入学定員 増減数
教育学部	学校教育課程	130	150	20
	生涯学習学科生涯学習専攻	60	45	△15
	生涯学習学科生涯スポーツ専攻	40	55	15
	心理教育学科	100	120	20
外国語学部	英米語学科	120	90	△30
	グローバルコミュニケーション学科	100	80	△20
経営学部	経営学科	345	430	85
社会環境学部	社会環境学科	120	130	10
法学部	法律学科	200	125	△75
健康プロデュース学部	保育健康学科	50	40	△10

令和10年4月 作業療法学科は 静岡水落キャンパスへ 移転予定!

静岡県中部地区

初



資格を取得した
卒業生の
就職率

100%
(令和7年度実績)

作業療法士
国家試験
合格率

100%
(令和7年度実績)

保健医療学部
作業療法学科